

巣立ちのとき 近づく



卒業式の歌唱練習がいよいよ進み、高まりが感じられるようになってきました。「卒業生の歌」として歌われる曲の歌声も聴かせてもらいました。6年生の誰もが真剣に歌っていて、一人ひとりの声を聴き取ることができました。小学校生活最後の歌声を、最高の歌声として心に響かせて巣立ってほしいと願います。

送る側の準備も進んできました。「呼びかけ」の各学年代表の皆さんは会議室での練習を重ねて、体育館へと練習の場を移しました。聞き役と発表役とに分かれて、言葉の聴き取りやすさや間の取り方などについて、意見交換をして互いに高め合っています。当日の緊張感あるなかで、自分の言葉を式場にいる方すべてに伝えることができたなら、そんな経験も得がたいものだと思います。



新児童会が企画する「6年生を送る会」は、いよいよ今日（1日）に本番を迎えます。そのなかで行う全校ゲームの事前準備の集会も行われました。



音楽が止まったら、子どもたちは先を争って床に置いてあるフラフープに入って立ちます。同じフラフープに入った友だちとハイタッチをする、というルールなのですが、一回毎にフラフープの数が減らされていきます。次のタイミングではみ出してしまわないように、というスリルがともなう素敵なゲームです。5年生の皆さんには、全校児童が安全で楽しむことができる、という見通しが持てたのでしょ

うでしょう。そして本番でもきっと自信をもって進行できることと思います。楽しみながら事前準備もできてしまう、とてもよい企画だと思いました。

各学年でも、この会の「出しもの」（発表）の準備を進めてきました。お世話になった6年生に感謝の気持ちが伝わるようにと、熱心な練習を重ねました。そんな活気あふれる子どもたちの様子を見させてもらいながら、本番が楽しみでもあり、一方で6年生の卒業がどんどん近づいてきていることに寂しさも感じているこの頃です。

「学校で一番大切な行事が卒業式」と言われます。子どもたちの姿を見ていると、そんな言葉にも納得させられます。

6年生の巣立ちを喜び合うとともに、在校生の成長も感じ取ることのできる、そして今日までの感謝の気持ちを伝え合う儀式。だから一番なのですね。



地区児童会引き継ぎ



とある6年生が、児童会の引き継ぎを終えたときに、「終わっちゃったあ、何だかおかしくなりそう。暴れそう」と思わず口にしたのを聞きました。「本当にがんばってきたんだね、分かる気がする」と思いました（暴れられるのは困るけど）。

地区児童会では、子どもさんの学年に偏りがあり、5年生以下であっ

ても三役を務めてきた地区もありました。これもまた、大変なことです。

28日の引き継ぎでは、6年生不在のために今まで三役を務めてきた5年生以下の子どもさんが、来年度も役割を変えただけで引き続き役員さんを務める、という地区もありました。今日までよくぞ頑張ってきてくれました。そして、ここからまたリーダーとしての活躍に期待します。

教頭先生 ありがとうございます

大輪の菊を育てて秋に学校中を立派な菊で埋め尽くしてくださったり、お正月にはプロも顔負けしそうな立派な門松を手作りして玄関を飾ったりしてくださった教頭先生。今度は慣れた手つきでミシンを操り、体育館のあちこちに冷気の侵入を防ぐカーテンを設置してくださいました。ジェットヒーター



の効きもよくなり、体育館が暖かくなりました。卒業生を暖かく送り出すことができます。何でもできてしまう教頭先生、ありがとうございます。